

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1950480010		
法人名	医療法人 景雲会		
事業所名	グループホーム アゼリア		
所在地	山梨県甲州市勝沼町菱山中平4300		
自己評価作成日	平成21年12月17日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-yamanashi.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	1月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人ひとりが興味を持てる事や、能力を引き出すような事を、クラブ活動やレクリエーション活動として行っています。利用者の希望を聞き、遠足、外食を楽しんでいます。また、地域交流を心がけ、イベントに参加したり、ボランティアの方を招いたりしています。

ブドウ畑に囲まれた閑静な丘陵地の眺めの良いところに位置している。利用者は東側の土手で取れる季節の山菜(フキノトウ、タラの芽、明日葉、ミョウガ等々)の収穫を楽しみ、隣接のぶどう農家からのぶどうや家族からの季節の野菜を取り入れた食事やおやつに、季節感を味わっている。趣味では、デパートの福祉施設関連の展覧会に多くの利用者が出品し、刺繍作品が入選、作品を居間に掲示し、今年も出品したいと、今から張り切っている。施設内は利用者と職員が気軽に会話し、明るい雰囲気を感じる。ドライブなども外部資源を有効に使っている。職員の提案による業務改善や、より地域との結びつきを強くするための方法等検討実施されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当事業所の基本理念のもと、方針・目標を明確にし、管理者と職員で話し合う機会を設け、地域交流を大切にし、積極的に活動している。	理念は明文化されていないが「品良く、明るく、やさしい介護」をモットーに、日々のケアにあたっている。朝の会で職員全員で唱和し、職員間で確認しあいながら、より良いケアに心がけている。	理念を常に職員が確認できるよう掲示すると共に、家族や地域に知らせる事は大切な事であり明文化することを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	警察署及び駅前の花の手入れや、交通安全教室に参加する等して、地元の人々との交流を深めている。	警察署や消防署の提案で、各所の花壇の手入れや行事に参加している。保育園児・小・中学生・地域のボランティアの訪問を受け楽しい交流をしている。リサイクル活動として、ペットボトルの蓋の回収を積極的に協力している。	地域の住民に事業所を理解してもらおうと共に認知症の理解を深めてもらい、利用者に対応してもらおう事は非常に大切である。住民との関係を、密に出来るよう働きかけることに期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員間で話し合いの場は持っているが、実際には、まだそのような機会がないのが現状である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度の割合で開催しており、実際に取り組んだ内容や、今後の活動等について報告している。それに対して意見交換を行い、そこで得た情報をサービスの向上に活かしている。	包括・市役所・地域の有志・利用者・家族・施設側とで実施、行事計画や現状を報告をしている。地域との交流の方法としてメンバーよりアドバイスがあり、ほうとうや味噌作りなどの取り組みが進められている。その他、菜園の土作や栽培方法なども指導を受けている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に運営推進会議を行っている事から会議の場以外でも、情報やアドバイスを頂き、市町村との連携を図っている。	運営推進会議での情報交換と、諸手続による訪問が主である。出向いての情報収集や便りの配布などは、あまりなされていない。	市町村には積極的に出向き、市の担当者となんでも話せる関係を築き、協力してもらえる事は問題解決等には重要な事でありより、良い関係を作る事を期待する。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が身体拘束をしない事を学習し理解している。玄関は、日中センサーを設置し、自由に出入りができるようにしている。また、居室においても昼夜を問わず鍵はかけず、自由に出入りできるようにする等し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	マニュアルや計画的な内外研修、勉強会で全職員の理解を深めている。在宅復帰を目標に掲げケアに当り、施錠はせず見守りで対応している。スピーチロックは馴れによるケアに注意し、職員同士が注意し合い啓発している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や研修会において、制度について学び理解した上で、それについて話し合う場を持っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会や研修会において、制度について学び理解した上で、それについて話し合う場を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に必ず、理解・納得して頂けるよう説明し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族に対し苦情処理に関する概要を提示している。また、利用者の意見も傾聴し、不平不満等を受け入れ、ケアや運営に反映している。	家族の意見要望は速やかに検討対応しケアに取り入たり、改善したりしている。情報収集はアンケートや行事参加時、訪問時の面談、会報の情報欄や手紙などのお知らせを利用している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議等で各職員と意見交換をする場を持ち反映させている。	月1回の全体カンファレンス、毎週の小カンファレンスで意見要望を検討し実施している。最近では正月の食事場所、加湿器や調理備品が購入実施され、菜園関係や車いす購入、地域へのGHとしての参加方法等の提案を検討中である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会議等で話し合いの場を持つたり、勉強会等を定期的実施する中で、職員が向上心を持って働く事が出来るよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職時のオリエンテーション及び新人教育の実施。その後、内部研修・外部研修への参加を促し、外部研修受講者は職員への伝達講習を必ず行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加盟しており、勉強会や交流会を通じて活動し、サービスの質を向上させていくよう取り組んでいる。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に本人と話す機会を十分に持ち、受け止める努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に家族と話す機会を十分に持ち、受け止める努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時は可能な限り対応できる様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	”共に生きる””出来ない事をサポートをする”等の視点で毎日支援している。人生経験豊富な利用者から多くの事を学んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際は必ず家族と話す時間を設け、良い雰囲気を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の運動会や集まりに参加する等して、これまでの生活が途切れてしまわないように支援している。	利用者の地域の組の人の誘いでの行事参加や家族・親戚の冠婚葬祭に出席、お墓参り、自宅訪問等をしている。併設老健の前にポストを設置してもらい、手紙や職員と共同制作の年賀状、家族や友人への電話など馴染みの関係を切らさない支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援 に努めている	利用者同士で支え合う事が出来るように、さりげ ない声掛けや働きかけをしてサポートしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係 性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経 過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後でも、本人及び家族から相談を受けた場合 は、必要に応じて対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討して いる	本人及び家族と話し合う機会を多く持つ事により、 希望・意向の把握に努めている。	利用者からは、日々の食事の時やテレビ観賞時に 食べたい物や季節の行事で出される食べ物、行き たい場所や懐かしい場所、趣味等を会話からそれ となく聞き出し、把握に努めケアに取り入れてい る。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	入居時に家族との面談を行い情報収集し、本人の 把握に努めている。また、センター方式を活用し ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	記録・申し送りなどを活用して情報を共有し、利 用者の現状を把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合 い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に 即した介護計画を作成している	本人の意向を第一に考えながら、面会の際に家 族の意見や要望を聞いたり、カンファレンスの中 で、職員が意見を出し合いながら検討し、作成 している。	3か月に1回カンファレンスを行い見直しを実 施し、月1回の全体カンファレンスで確認して いる。薬が変わった時や日々の行動に変化が見 られた時は、モニタリングを行い、計画に反映 実施し、故等が起きないようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別記録に記入し、情報の共有を行い、ケ アや介護計画に反映している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人及び家族のニーズに合わせ、職員が随時対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署及び警察署、その他民間の協力により、地域で行われているボランティア活動に参加させて頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携の医療機関や近隣の総合病院等と連携をとっており、気軽に相談できるような体制が確保されている。また、利用者のかかりつけ医とも常に連携を取り、適切な医療を受けられるよう支援している。	通院は家族が主体で行い、状況報告は書面で知らせている。家族の都合の悪い時や緊急時は、家族の了解を得て事業所が対応して受診している。かかりつけ医で対応できない場合は、契約病院や近隣の総合病院を紹介している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の老建の看護師に相談する等して支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は、面会に行き家族や病院関係者と情報交換しながら、早期退院に向けて、話し合いをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当事業所では、利用者の有する能力に応じ自立した日常生活を営む事ができるよう、事業所認知症対応型共同生活介護計画に基づいて、介護機能訓練その他日常生活の世話を行い、居宅における生活への復帰を目指す事を第一に考えている。その為、終末期の体制はとっていない。また、重度化対応もとっていない。	終末期の対応については話し合っているが、夜間の看護師や24時間対応医師の確保が出来ていないことと、職員の理解も不十分のため実施していない。	住み慣れた場所で安心して終末期を迎えられる事は、利用者・家族にとって大切な事である。事業所で話し合いを重ね、深めると同時に、可能な限り支援体制に努める事を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が普通救命の講習を受け定期的に学習している。また、マニュアルを作成し併設施設の看護師の指導の下、万が一事故が起きた場合には、それにのっとり対応できるように学習している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時のマニュアルがあり、日頃から職員同士で確認合っている。又、年2回地元消防署の防災訓練及び指導を受けている。	隣接の施設と合同で、年2回夜間を想定し実施、各ユニットから職員2名参加し、マニュアル・役割分担・設備操作・避難誘導等の訓練をしている。独自に地震を想定し、参加できる利用者と避難訓練を1回実施している。	年2回の避難訓練で利用者にも参加してもらい、災害時の避難が職員・利用者の協力で、スムーズに出来よう訓練することを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	あくまでも、利用者は人生の先輩であるという事を念頭に置き、言葉遣い等に気を配り、その場の状況を見て言葉掛けや対応をしている。	職員の研修で「人生の先輩として敬意を払い」、苗字で〇〇さんと呼び、言葉遣いにも気を使っている。部屋の表札や広報等の写真掲載は、家族の許可を得て実施している。失禁やトイレ誘導などは、周りに気づかれないようにし、失敗して落ち込んでいる時は、職員が同じ立場になって慰めて落ち着かせている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が気軽に意見や希望等表す事が出来る雰囲気作りを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースに合わせ、一緒に過ごす時間を多く持ち、共に生活を楽しむ中で、希望に沿うよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	移動美容院を利用できるようにしている。また、外出時に家族と馴染みの理美容院に行くこともある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な限り一緒に調理を行っている。また、職員も利用者と共に食事をとり、楽しく過ごしている。	買い物から片付けの皿洗いまで全てに、出来る人には参加してもらっている。食事は職員も加わり、利用者の様子を見ながら会話を楽しみ、明るい雰囲気ですべて食べている。献立に利用者の好みを取り入れ、味付けは利用者から学ぶ事もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量等一人ひとり把握し記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけ等を行い口腔ケアを促し、一人ひとりに合わせた方法で支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンをチェックして、さりげない声かけや誘導を行っている。	排泄パターンを記録し、声かけに利用、出来るだけ自立できるようにし、各トイレにパットやリハビリパンツを準備して、対応できるようにしている。夜間誘導については家族と相談して、睡眠のことも考慮に入れて実施している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝食事前に、利用者全員がラジオ体操を行い牛乳を飲む事を日課としており、食物繊維や乳酸菌を含む食品を多く摂り入れる工夫をしている。また、レクリエーションでも適度な運動を行う等して便秘予防を図っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	いつでも入れるように配慮し、入浴を楽しめることができる支援をしている。	いつでも入浴できるよう、体制を整えて希望に応じている。気の合う人同士で入浴する事もある。拒否する人には足浴や気分の良い日または、孫と電話で会話をした時等タイミングを見つけた時、入浴支援につなげている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日常の生活が活動的になるように働きかけ、安眠できるよう支援している。眠れない時は温かい飲み物を提供したり、話相手になる等して眠れる環境を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが服薬する薬の作用や副作用、用法等を個人ファイルに綴り、全ての職員が情報を共有した上で服薬の支援をしている。また、必要に応じて提携病院の薬剤師に相談出来る体制も整えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人及び家族から、これまでの生活歴を聞く等し把握した上で、過去の経験を活かして得意な事に力を発揮する事ができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	敷地内の畑を見に行ったり、近所を散歩したり、買い物やドライブに出掛ける等して、戸外に出掛ける機会を設けている。また、利用者や家族の意見を取り入れながら、毎月遠足等を計画し、四季折々の季節を楽しみながら、外出している。	希望に応じて、広い敷地内の散歩や駅までの散歩をしている。月1回の長距離ドライブでは2時間ほどかけ外食をしたり、公園の散歩を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはホームで預かっているが、場合によっては家族との話し合いの上で、小額を自己管理している利用者もいる。また、買い物の際には、自分で支払いができるよう財布を渡し支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員と散歩がてらポストに手紙を出しに行ったり、公衆電話がある場所まで行き本人自ら電話している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内は適度な明るさを保ち、テレビやBGMの音量も気にならない大きさに配慮している。	共用空間は良く清掃され清潔感がある。居間には利用者と職員合作の季節感のある作品や大きなトラの絵が飾っており、窓やベランダからは、ぶどう畑や近隣の町から甲府盆地、南アルプスまで眺望できる。ゆったりとした空間の中、明るい表情で自由に過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室やベランダがある。また、玄関外にはベンチが置いてあり、一人ひとりの時間を過ごしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や生活用品を持って来て頂き、本人及び家族と相談しながら配置場所も考慮している。	使い慣れた家具等が持ち込まれ、ハンガーに上着など衣服がかけられ、鏡や化粧品が置いてあり、家族や旅行の時の写真も飾り、その人らしい部屋になっている。壁には自作の絵や習字などが張られ、広い窓からの眺めも良い。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室やトイレ等に手すりを設置し、流し台や物干し等の高さも使い易いように工夫している。		